FD 報告

長野県と本学の包括協定に基づく２プロジェクト実施報告

――王滝村の新観光戦略提案事業と峰の原高原ペンション村インターンシップ事業――

磯　貝　政　弘

Implementation Report of the Two Projects on the Basis of the Framework Agreement to Nagano Prefecture and Atomi University has Concluded

――Project to Propose a New Tourism Strategy for the Otaki Village and Internship in Pension Village of Minenohara Plateau――

Masahiro ISOGAI

はじめに

2015年６月22日に跡見学園女子大学と長野県は、長野県における次代を担う人材の育成・確保と地域の活性化を図るため、相互に連携・協力して取り組むことについて協定を締結した。本稿はこの協定に基づき、本学の学生とともに実施した下記の２つのプロジェクトについて報告するものである。

１．長野県木曽郡王滝村の新しい観光戦略づくり
２．長野県須坂市峰の原高原ペンション村インターンシップ

それぞれのプロジェクトにおける学生たちの活動と、それらを通して学生たちが考え、提案した成果を本稿では記録している。また、王滝村のプロジェクトでは、報告者である筆者も現地調査の全日程に同行しており、その間の学生たちの行動や言動を観察し、感じたこと、考察したことも記録している。それらはいずれも現段階では仮説の域を出るものではないが、現代の観光研究にとって非常に重要なテーマの一つとなり得るものと確信している。

一方、峰の原高原ペンション村インターンシップでは、７日間の期間中に２回の現地訪問を行ったのみで、学生たちの様子を一部しか見ることができなかった。しかし、12月13日（日）の「峰の原高原集落“再熱”実施モデル地区支援事業中間報告会」での報告内容と議論の過程で、学生たちが現地で感じたこと、考えたことは細かく聴き取ることができた。また、11月17日（火）に新座キャンパスで開催した意見交換会において、峰の原高原観光協会長古川茂紀氏、須坂市役所総務部政策推進課係長加藤広明氏、松田祐樹氏と学生たちとの間で交わされた議論や12月の「中間報告会」で学生とペンション経営者との間で行われた質疑応答を聴くうちに、日本のリゾート・ペンションという業態が抱える今日的な問題点が浮かび上がるという副次的成果を得ることもできた。それについては、「マーケットとペンション経営者のリゾート観のギャップの拡大」という仮説を提示し、簡単にその概要を書き留めている。

なお、これら２プロジェクト以外にも、2016年１月12日（火）に首都圏から長野県へＩターン就職した女性２人を講師として新座キャンパスにお招きし、「地方で働くとは」と題するセミナーを実施した。

最後に、素晴らしい学外学習の機会づくりにご尽力いただいた長野県庁、須坂市役所、峰の原高原観光協会、王滝村の皆様のご厚誼に深く感謝を申し上げたい。

第１章　長野県王滝村現地調査と新たな観光戦略づくり

１．王滝村の概要と王滝村プロジェクトの目的

(1) 王滝村の概要

長野県木曽郡王滝村は、長野県の南西部に位置する人口841人（2015年12月１日現在）の山村である。北部に霊峰御岳山（標高3,067m）がそびえ、西側は岐阜県中津川市と隣接する。面積は310.86km^2。村としては長野県で最も広い。しかし、その97％を山林原野（内87％は国有林）が占め、王滝川沿いの僅かな土地でほとんどの村人が生活を営んでいる。村の中心地の標高は920～940m である。

出典：王滝村ホームページ

王滝村の象徴はなんといっても御岳山である。「王滝」という村名も、江戸時代初期に「おのたけ」と呼称された御岳山に由来するという。富士山、白山と並ぶ霊峰として古くから知られる御岳山および御嶽信仰とともに、王滝村の歴史はある。

しかし、江戸時代の王滝村にはもう一つ重要な歴史がある。

尾張藩による厳しい保護、管理の下で、「木一本、首一つ」といわれた「木曽ひのき」の歴史である。「秋田スギ」、「津軽ヒバ」とともに日本三大美林とされるひのきの森は、いまでも美しい。王滝村はその恵みによって豊かな村として栄えたが、1970年代から林業は衰退していった。それを象徴する出来事といえるのが、1975年に王滝森林鉄道の廃線であろう。

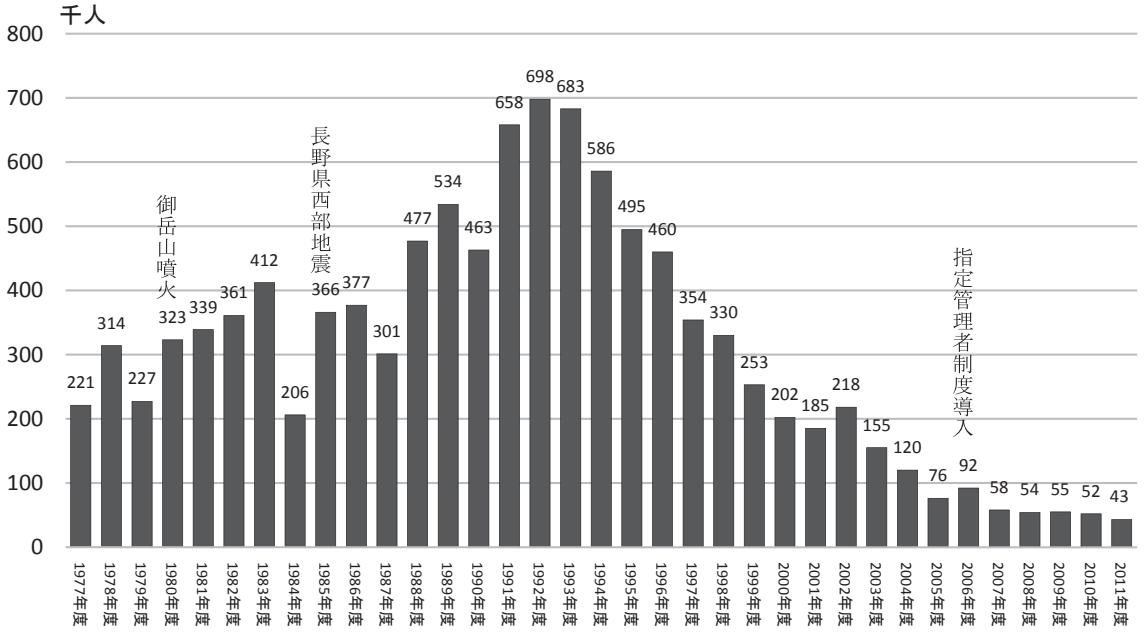
林業にかわって王滝村経済を支えたのは、1961年に開業した村営おんたけスキー場であった。1957年に着工し、1961年に完成した牧尾ダムによって農地の３割が水没、住民の２割が移住することに対して支払われた補償金で開発されたスキー場は、1992年度にはシーズン計69万８千人が利用した。しかし、その翌年から利用者数は減少に転じ、2004年度には７万６千人にまで落ち込んだ。全国的なスキー人気の低落に加え、東海北陸自動車道の延伸が、中京圏のスキーヤーの目を岐阜県飛騨地方のスキー場へ向けさせたこともその大きな要因と考えられている。

そうしたなかで、2005年に指定管理者制度が導入され、スキー場の運営は加森観光に委託されることとなった。2007年には「おんたけ2240」スキー場に名称変更されたが、利用者数は回復せず、2011年に加森観光が撤退。その後の一シーズンは再び村営スキー場として運営されたが、2012年には数多くのスキー場運営を手掛ける株式会社マックアースが指定管理者として運営受託し、今に至っている。（図1-1-1）

林業とスキー場のそれぞれの事業推移は、そのまま王滝村の人口推移と重なる。

戦後の王滝村の人口は、林業が活況を呈していた1950年代から70年代前半あたりまでは、逓減傾向にあったとはいえ2000人台を維持してきた。それに続く80年代は比較的人口が安定していたが、90年代に入って大きく減少した。そ

図1-1-1　おんたけスキー場（おんたけ2240）利用者数推移



出典：王滝村ホームページ

して、2000年代になると王滝村の人口減少は加速度的に進んだ。

また、2000年に25％を超えた65歳以上の高齢者比率は、2005年には30％を超えた。人口減少と高齢化の急速な進行がみられる。

一方、第一次産業に従事する人口は、1980年の509名から2010年には56名へと激減し、村の全就業者に占めるシェアも45.0％から11.6％へと大きく低下している。これほどではないが、第二次産業従事者数も1980年の193人から2010年には76人へと大幅に減少している。ちなみに村の製造業では、「百草丸」で全国的に知られる日野製薬株式会社が挙げられるが、それでも従業員は40人程度に過ぎない。

それらに対して、第三次産業従事者の数にはそれほど大きな減少はみられず、相対的に村全体の就業者数に占めるシェアが37.9％から72.7％へと大幅に上昇した。とはいえ、王滝村の一般商店や飲食店の数は非常に少ない。第三次産業が現在の王滝村の経済を支えているは間違いないが、その主軸となるものは商業や飲食業ではなく、スキー場や旅館など観光産業であることは明らかである。（表1-1-1）

表1-1-1　王滝村の世帯数、人口の推移

区　　分	1950年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
世帯数（世帯）	744	681	762	581	536	517	826	874	443	501	498	427	414
人口（人）	4,283	3,270	3,862	2,556	2,266	2,037	1,768	1,708	1,239	1,232	1,205	1,097	965
男性	2,716	1,890	2,419	1,463	1,352	1,187	999	1,015	586	621	598	513	445
女性	1,567	1,380	1,443	1,093	914	850	769	693	653	611	607	584	520
65歳以上人口（人）	—	—	—	—	—	—	183	194	223	276	319	351	340
高齢化率（％）	—	—	—	—	—	—	10.4	11.4	18.0	22.4	26.5	32.0	34.4
第１次産業就業者数（人）	—	—	—	—	—	—	509	312	199	136	80	89	56
第２次産業就業者数（人）	—	—	—	—	—	—	193	436	121	118	116	72	76
第３次産業就業者数（人）	—	—	—	—	—	—	429	433	446	481	434	364	352

出典：総務省「国勢調査」

(2) 2014年９月の御岳山噴火と本プロジェクトの目的

2014年９月27日11時52分に発生した御岳山の噴火によって、58人もの登山者が犠牲となった。スキー場の経営が厳

しさを増すなかで、御岳登山と御嶽信仰によって王滝村の観光産業は細々と支えられてきた。それだけにこの災害によって受けた損害は甚大であった。

「おんたけ2240」スキー場は、ゲレンデのほぼ半分が入山規制区域に入ったことで、2015年２月末まで営業休止を余儀なくされた。旅館の宿泊客数も激減した。

御岳山では、1979年10月28日にも噴火（水蒸気爆発）が起こっているが、この時は２カ月ほどで沈静化し、被害も小さかった。

また、1984年９月14日の長野県西部地震（マグニチュード6.8）では、御岳山南斜面で大規模な山体崩落が発生し、濁川温泉などが土石流で流され、15人の犠牲者が出た。

小規模な噴火や地震といった災害は、1979年以降たびたび起こっていたわけだが、2014年の噴火による被害の大きさは、犠牲者の数をみただけでも、これまでのものとはまったく異なることがわかる。さらに、テレビなどのニュースを通じて流された映像が所謂“風評被害”を広めたことも、それまでの災害とは大きく異なるところである。

噴火から１年が経過した時点でも、一般登山者は七合目の遥拝所から上への立ち入りは禁止されていた。この状態が続く限り、一般の登山者や登拝目的の登山者の復帰は望めない。また、こうした状況がいつまで続くのかは予測すらできない。王滝村は、まさに存亡にかかわる危機に直面したのである。

こうした危機感を背景とする本プロジェクトの目的は、御岳山登山を旅の目的としない人に対しても、強く訴求できる新しい観光コンテンツを発見・開発するターゲットとすべきことである。そして、新しいマーケットの特定とそこへのアプローチ方法を研究し、従来とは異なる角度から王滝村の観光戦略を提案することであった。

さて、本プロジェクトを進めるにあたって仮に想定された新しいマーケットは、大都市圏に居住する、登山とは無縁の若い女性であった。プロジェクトの実行者として本学の学生が選定された理由もそこにある。

現地調査に出かける前に、指導教員として筆者が学生たちに期待したことは次のようなことであった。

① 普通の女子大生として、王滝村の観光資源の中から心の底から楽しめたものとそうでなかったものを感覚的に選別すること。

② そのうえで、選別した観光資源を分類し、これまで学んできた観光に関する知見を活用して、論理的に観光商品づくりの方向性を提案すること。

③ 自分が実際に活用しているコミュニケーションの方法を論理的に分析し、そこから王滝村の新しい観光情報戦略を提案すること。

以上の３点が、３泊４日の現地調査において学生たちに課された役割であったといってよいだろう。そして、そこから生み出された様々なアイデアを、指導教員を交えた議論によって練磨し、最終的な調査報告書を作成することとした。

８月31日（月）から９月３日（木）までの現地調査に参加したのは、筆者が担当するゼミの３年生17人であった。これに指導教員として筆者が同行した。また、小川功学部長が８月31日から９月２日まで同行し、森林鉄道の活用方法などについて貴重なアドバイスを行った。

２．事前学習

(1) 王滝村の観光資源

王滝村を代表する観光資源は、なにはさておき御岳山である。

ゆったりとした広大な裾野を持つこの独立峰は、荘厳で美しい。しかし、広い範囲からその姿が眺望できる富士山とは違って、「木曽路はすべて山の中である」という一文から島崎藤村が「夜明け前」を書き始めた通り、御岳山の周囲には深い山並みが続き、その山容を望めるスポットは極端に少ない。幹線道路である国道19号線から御岳山の姿が見られるのは、道の駅「木曽福島」のみだという。御岳山の知名度が富士山に比べて低いのも、こうした地形の違いが原因なのかもしれない。

しかし、山が深い分だけ御岳山の自然は豊かである。その魅力は多彩で奥深い。

御岳高原から眺めるその姿は神々しく、古くから信仰の対象となったことが理屈抜きで納得できる。七合目の田の原天然公園からみる中央アルプスや北アルプスの美しさも格別である。こうした自然景観だけではなく、「御嶽古道」のような素晴らしい散策路もある。高山植物にも恵まれている。里へ下りれば、いつでもニホンザルに出会える。ひのきがすっくと立ち並ぶ里山も美しい。夜には、満天の星が空一面に広がる。王滝川の支流には、美しい渓谷がある。その多くは国有林内にあるため、出入りする人は少なく、秘境の趣もあるらしい。ダム湖であるおんたけ湖の穏やかな水面に山々が映る光景も、長野県西部地震の土石流によって出来た自然湖に枯木が疎らに立ち残る風景も、ともに神秘的な美しさを湛えている。

王滝村第一の観光資源は、こうした豊かな「自然」であると断言してよいだろう。

自然に次ぐ観光資源は、山岳信仰にまつわる様々な事跡であろう。

御岳山登拝の歴史は奈良時代以前にまで遡るとされるが、それが広く大衆化したのは江戸時代後期、黒沢口登山道と王滝口登山道が開かれてからのことだという。

頂上奥社は文武天皇の御代大宝２年（702年）信濃国司高　根道基創建し、光仁天皇の宝亀５年（744年）信濃国司石川朝臣望足勅命を奉じ登山し悪疫退散を祈願され、ついで延長３年（925年）白川少将重頼登山し　神殿を再建す。ついで応保元年（1161年）後白河上皇の勅使が登山参拝された。一合目里宮社は文明16年（1484年）再建、文亀３年（1503 年）再興と記録にあります。

古来登山するには麓で百日精進潔斎の修行をしてから登拝したものでありましたが、後世の天明２年（1782年）に覚明行者が黒沢口登山道を、寛政４年（1792年）に普寛行者が王滝口登山道をそれぞれ開き講社を作り軽精進潔斎で盛んに登山を奨励し、続いて一心行者、一山行者もこの跡を継ぎ又、諸行者相継いで神山の尊きこと全国に広まり、今日の盛大なる御嶽講社の基礎となっています。

出典：御嶽神社ホームページ

御嶽神社は、王滝口山頂に鎮座する奥社と一合目の里宮、四合目の十二大権現、五合目の八海山神社、七合目の田ノ原大黒天と三笠神社及び八合目の遥拝所で社殿が構成されている。噴火前には奥社参拝が最大の観光資源だったのだろうが、今後は里宮を起点にした観光を考えなければならないだろう。

里宮も、古い長い石段の先に鎮座する社が荘厳で、見応えがある。

里宮から程近い山中には、清滝と新滝がある。清滝は、御嶽信仰の信者にとって滝行の場として知られる。落差30m の滝に打たれる前に信者が白衣に着替えるための小屋まで設置されている。

「死後わが御霊はお山にかえる」という御嶽信仰に由来する「霊神碑」が、そこかしこに建つ登山道には、スピリチュアル・ロードらしい雰囲気が色濃く漂っている。これもまた王滝村ならではの景観といえるだう。

その他の観光資源では、林業が盛んだった時代の産業遺産、森林鉄道の路線跡と松原スポーツ公園に動態保存されている機関車、愛知用水の水源である牧尾ダムなどが挙げられる。

霊神碑

清滝

御嶽神社里宮

写真：王滝村ホームページより

特産品では、百草丸が全国的に知られるが、それ以外で知名度が高いものはないのが現状である。

食の分野でも、独特の漬物「すんき」があるが、そのあまりにも独特の味わいゆえに、広く受け入れられるものではないのではないだろうか。それよりも面白いのは、「どんぐり」の実を食べる文化であろう。灰汁抜きなどの手間がかかるため、いまは普通の家庭で食用にすることはないそうだが、村営の郷土料理店「ひだみ」でその風味を知ることができる。「どんぐりコーヒー」、どんぐりの実を磨り潰して作った粉で焼いたパン、パイ、サブレなどは、なかなかの美味である。また、「イノブタ丼」も村のちょっとした名物となっている。しかし、いずれも知名度は低い。

アクティビティでは、おんたけ2240スキー場のほかに、おんたけ湖、自然湖の２か所で営業しているカヌー体験教室、おんたけ銀河村キャンプ場、森きちオートキャンプ場という２か所のキャンプ施設、川魚のつかみ取りもできる水交園、松原スポーツ公園の多目的グラウンド、サッカー場などがある。

祭り、イベントでは、御嶽神社例大祭に代表される歴史的祭礼やマウンテンバイクやマラソン、ウォーキングなどのスポーツイベントも催されている。

どんぐりをイメージしたゆるキャラ「くりぴー」も忘れるわけにはいかないだろう。

⑵ 事前学習

2015年７月13日（月）に王滝村村おこし推進課課長補佐兼地域交流係長丸山文広氏、王滝村でボランティアガイドを務める西村勲氏、長野県庁地域振興課課長佐藤公俊氏をお招きして、王滝村の観光資源についての勉強会を開催した。

この勉強会で配布されたパンフレット類やインターネットを活用して、学生たちは王滝村の観光資源リストを作成した。作業を進めるにあたり、観光資源の分類方法など基礎的なリスト作りの手法をゼミで指導した。現地調査出発直前の８月28日（金）に観光資源リストを持ち寄り、王滝村の観光資源の共有化と現地での調査方法について最終的な確認を行った。

３．現地調査

⑴ 現地調査の日程・概要

・現地調査期間　2015年８月31日（月）～９月３日（木）　４泊５日

・参加者　跡見学園女子大学マネジメント学部観光マネジメント学科３年生（磯貝ゼミ）17名　＊現地調査では２班に分かれて行動した。

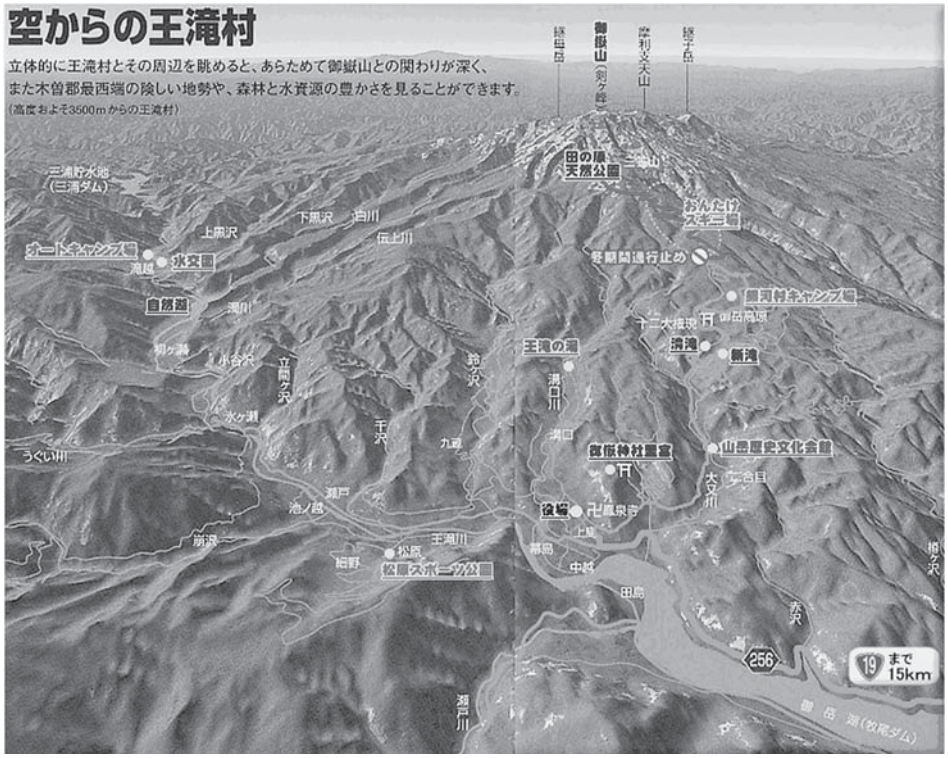
・１日目　新宿駅西口－（高速バス）－木曽福島駅前－（村バス）－松原スポーツ公園（献花と森林鉄道試乗）－（村バス）－王滝観光総合事務所（村中心部散策）…（徒歩）…御嶽神社里宮（視察）…宿（１班＝たかの湯、２班＝くるみ沢旅館）　夕食後：銀河村キャンプ場にて星空観察（雨天のため、室内でパソコンを使った御岳高原の星空解説）

・２日目　宿－（村バス）－田の原天然公園と遥拝所（視察）－（村バス）－おんたけ2240スキー場（視察）－（村バス）－そば処さくら（昼食：そば）－（村バス）－銀河村キャンプ場…御嶽古道遊歩…新滝…清滝（滝行）－（村バス）－宿（１日目と同じ）　夕食は王滝村総合戦略会議産業部会メンバーとの意見交換会

・３日目　（１班）宿－（村バス）－自然湖（ネイチャーカヌー体験）－水交園（魚つかみ取りと昼食）…おんたけ森きちオートキャンプ場（視察）…民宿三浦屋（経営者と懇談）－（村バス）－王滝村公民館（中間発表とりまとめ）－（村バス）－宿（藤屋）

（２班）宿－（県公用車）－民宿さわ屋（経営者と懇談）－（村バス）－水交園（魚つかみ取りと昼食）－（村バス）－おんたけ森きちオートキャンプ場（視察）－（村バス）－自然湖（ネイチャーカヌー体験）－王滝村公民館（中間発表とりまとめ）－（村バス）－宿（ペンション　オールドブリック）

・４日目　宿－（県公用車）－王滝村公民館（中間報告プレゼン資料作成作業）…王滝食堂（昼食：いのぶた丼）…王滝村公民館（中間報告会）…「王滝村」バス停－（路線バス）－木曽福島駅前－（高速バス）－新宿駅西口



出典：王滝村ホームページ

(2) 現地調査初日

2015年８月31日（月）昼過ぎ、新宿発の高速バスで学生16名（１名は同日深夜に宿で合流）がJR「木曽福島」駅前に到着。ここで村役場のバスに乗り換え、最初の訪問地である松原スポーツ公園へと向かった。

あらかじめ悪天候が予報されていたため、七合目の田の原遥拝所で予定されていた2014年御岳山噴火の犠牲者への献花と黙祷を、急遽、松原スポーツ公園内献花台で行うこととなった。その後、愛好家グループによって園内に敷設された軌道で、森林鉄道の乗車体験を実施。客車の中に大量の虫がいて、学生たちが乗り込むと一斉に動き出した。たちどころに悲鳴を上がる。が、しばらく走ったところで、ゆるキャラ「くりぴー」がとび跳ねる姿が目に入ると、それは突如として歓声にかわった。

松原スポーツ公園は小高い丘の上にある。すぐ下に王滝川が流れている。次の訪問地である王滝観光総合事務所への車中で、学生たちに森林鉄道乗車体験の感想を訊くと、「普通の女子大生にとって、列車の旅の楽しみは車窓に展開するきれいな風景を見ること」という答えが全員から返ってきた。

王滝観光総合事務所で王滝村役場の稗田和孝氏、地域おこし協力隊員の高尾康太氏と合流。班別に村中心部を散策した後、そのまま徒歩で御嶽神社里宮へ。小雨降る中を御嶽神社の苔むした長い階段を昇り、本殿参拝。

夕食後、御岳高原の銀河村キャンプ場へバスで移動。星空観察を予定していたが、雨天のため室内ホールにてパソコンを使った星空解説を聴講。

なお、初日から最終日までの現地調査・中間報告会の模様は長野朝日放送が同行取材し、９月４日（金）夕方の報道番組『abn・ステーション』で放映された。また、地元２紙、信濃毎日新聞、市民タイムスも熱心に取材してくれた。

(3) 現地調査２日目

ボランティアガイド西村勲氏の案内で御岳山七合目（標高2,180m）の田の原天然公園を散策。高山植物、野鳥などを観察した。２日目も悪天候。しかし、短い間ではあったが、雲の切れ目から御岳山が頂上近くまで眺望できた。その時の学生たちの顔には感動の色がはっきりと浮かんでいた。

昼食後、銀河村キャンプ場から御嶽古道を西村氏のガイドで清滝まで散策。小雨の中、何十年と整備をされずに放

置されてきたかのような山道を歩くのは、都会育ちの女子大生には厳しすぎたようだ。路面が悪いだけでなく、案内表示も設置されていないため、ガイドなしでこのルートを歩くのは危険である。学生たちが感じたその印象は、中間報告会でも大きく取り上げられることになった。

遊歩道の整備ということでは、清滝へと続く木橋も非常に問題のあるものだった。底板が何か所も朽ち果て、抜け落ち、いつ事故が起こっても不思議はないといった代物だった。

それとは逆に、清滝で体験した「滝行」は、意外なことに学生たちに大好評であった。滝から落ちる冷たい水に打たれることが、苦痛であると同時に爽快かつ新鮮な刺激として学生たちの心をとらえたようだ。滝行の前に先達の指導で行った神事と古式に則ったと思われる入念な準備運動も、忘れがたい体験となったと思われる。

写真提供：王滝村役場

この日の夕食は、旅館たかの湯で王滝村の総合戦略会議産業部会メンバーと会食。４つのテーブルに分かれて、学生たちは村の人たちと意見交換。村内が、新しい観光事業に対して積極的な人と消極的、あるいは否定的な人にはっきりと二分されていることを知り、学生たちは驚き、途方に暮れた様子がみられた。

(4) 現地調査３日目

３日目は自然湖に常備されているカヌーの台数を考慮して、２班に分かれての現地調査となった。ただし、立ち寄り先、体験メニューはほぼ同一であった。

① 民宿経営者との懇談

民宿の老経営者が語る、林業が盛んだった時代の王滝村の賑わいやそれとは対照的な現在の静かな生活と村の将来への不安など、様々な話に学生たちは聞き入っていた。地元の人たちとの触れ合いということでは、村の小学生たちの人懐こさ、純真さも強く印象に残ったようだ。

② 水交園でのマスのつかみ取りと昼食

昼食は自分の手でつかみ取りしたマスの塩焼きと五平餅。五平餅のような珍しい郷土料理が学生たちには興味深かったようだ。郷土料理といえば、この日の夜に藤屋旅館で味わった味噌仕立てのイノシシ鍋も大好評であった。

③ カヌー体験

長野県西部地震の土石流によって川が堰き止められてできた自然湖の湖面には立ち枯れした樹木がみられる。その間を縫うようにカヌーを漕ぐ楽しさは、学生たちにとって格別のものであったようだ。湖岸には時々“くりぴー”が出現し、とび跳ねてお道化る姿を見つけては、あちらこちらから嬌声が上がった。カヌー体験が終了した後にいただいたおやつの「どんぐりサブレ」も、学生にはとても美味だったようだ。

④ おんたけ森きちオートキャンプ場の視察

水交園の経営者とその飼い犬の人懐こい大型プードルに案内されて、おんたけ森きちオートキャンプ場を視察しながら河原まで散策。野生の茗荷やクマがいた痕跡、イノシシに荒らされた畑地などを発見。河原では子供のようにはしゃぐ学生たち。

３日目の宿泊は、１班が藤屋。２班が銀河村キャンプ場近くのペンション「オールドブリック」。オールドブリックでは、雲の切れ間から素晴らしい星空をみることができた。

この日は、各班ともに深夜まで中間報告の準備。

民宿「さわ屋」ご主人夫妻と記念写真

自然湖でカヌーの練習をする学生

写真提供：王滝村役場

(5) 現地調査４日目：中間報告会

現地調査の前に学生たちに与えた指示は、①観光資源台帳に記載した王滝村の観光資源の名称と概要をしっかりと記憶しておくこと、②現地で再確認できるように印刷したものを持参すること、の２点だった。

しかし、現地調査に入ってからは、観光資源台帳のことには一切触れず、学生には自分の感性の赴くままに、ただひたすら遊び、それぞれの場所や物事の印象を記憶に残すこと、ただそれだけを指示した。中間報告会までの３日間は、調査を忘れて旅を楽しむよう仕向けることが、今回の調査にとって最適の方法だと判断したからである。

ただし、中間報告会の前日の夕刻になって次のような指示をした。

現地調査の間に見聞したこと、体験をしたことの中から「感動したこと、良かったと思ったこと」と「嫌だったこと、つまらなかったこと、改善の必要があると感じたこと」を分類し、具体的な名称や事柄を並べたうえで、御岳登山抜きの新しい王滝村の楽しみ方と、それをマーケットに伝えるための最適な方法を考えて提案書を書きあげることだった。その際、中間報告でもあり、まだ体裁にこだわった立派なレポートを書き上げる段階でないことも付け足している。

結果は、私が予想していたレベルを超える充実した提案が出来上がり、プレゼンテーションもしっかりとしたものであった。

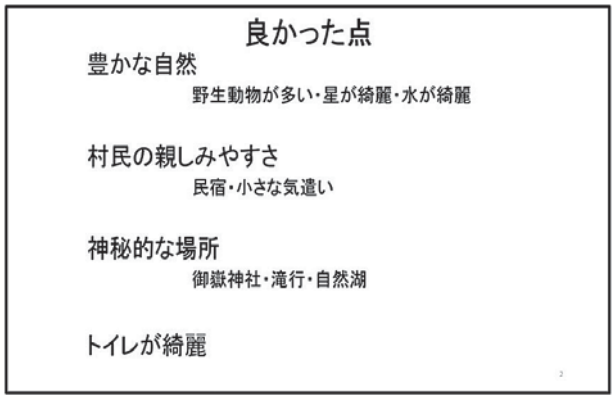
中間報告会で実際に使用したプレゼンテーション資料を参考までに以下に転載した。短時間で仕上げたため、写真などは必要最小限のものしか使われていない。また、これらの資料はすべて学生たちの共同作業によって作成されたもので、筆者の手は加わっていない。

写真提供：王滝村役場

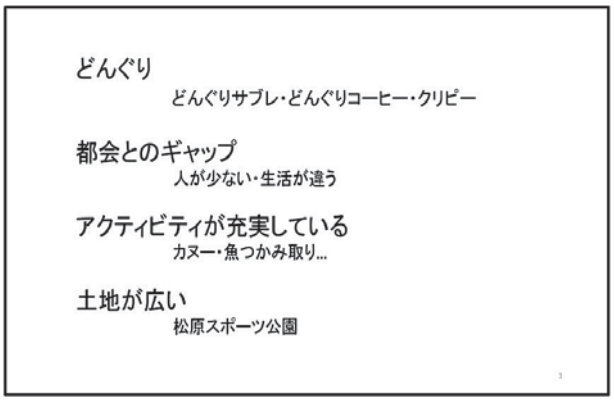
なお、第１班の資料にあるグラフは、この日の午前中に急遽、王滝村の観光資源を学生たちがどのように評価しているのかを知るために、随行していただいた長野県庁担当者の発案で実施したアンケート結果をまとめたものである。その中で、自然湖のカヌー体験の評価が、未体験のおんたけ湖カヌー体験よりも低くなっているが、それは自然湖のカヌー体験の費用が１人6,000円と学生にとっては高額であるのに対して、おんたけ湖のそれが3,500円であるという事実をアンケートの調査票ではじめて知った衝撃が反映された結果であると思われる。

①

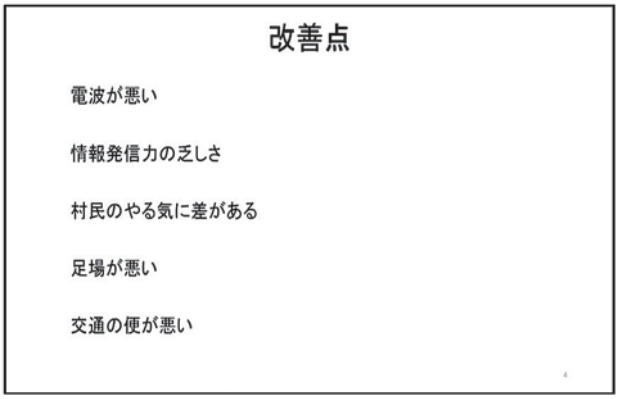
②



③



④



⑤

若者がいない

働き口がない

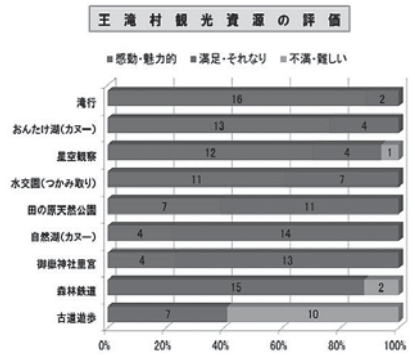
お店が少ない

名物が少ない

標識や地図が少ない

土地が有効活用できていない

⑥



⑦

王滝村に現存する観光資源を利用したツアープラン

- 『ポジティブツアー』
- テーマ…元気がほしい人たちを応援する
- ターゲット…都会で生活する若い女性
- ツアー内容
  - 一泊二日宿泊型
  - 滝行・神社・星空観察・カヌー等
  - 宿泊候補地…キャンプ場、民宿

⑧

- 滝行…観光事例で神奈川県南足柄市の『夕日の滝』
- 神社…御嶽神社里宮・田の原天然公園
- 星空観察…銀河村キャンプ場等
- カヌー…自然湖、御嶽湖
- 宿泊…村の方々と交流を深める目的

⑨

新しい観光商品の提案

- お土産が少ないという問題点
- 王滝村の特産物(百草丸・ヒノキ・どんぐり)を使用した
- 美容に関心の高い女性向けの商品『フェイスマスク』
- 事例…京都では抹茶を利用したフェイスマスクを販売
- ご当地色の強い商品をつくるべき

⑩

夏のスキー場の有効活用

パラグライダーにより
リフト、高山植物、広い土地の3つを活かす

⑪

松原スポーツ公園

スポーツができる環境整備
Ex)ラグビーやアーチェリー

森林鉄道の駅を新たに作る
夜間の運行　星空観察

⑫

まとめ

- 村と村民の意識の温度差
- 魅力ある観光資源
  ⇒滝行などを磨き上げて発信していく
- 王滝村を知る手段が少ない
  ⇒SNS（Fecebook,Instagram,twitter）

①

王滝村合宿レポート

跡見学園女子大学磯貝ゼミ2班

坂田真希子、櫻井美里、横山幸、七島由依菜
宇田川由未奈、伊藤麻衣子、横手藍花、高橋のぞみ

②

1.王滝村の全体的な印象

- 「御嶽山」知られているが、王滝村のことはほとんどの人が名前も知らない。
- 住民が親切。
- レトロな建物が多い。
- 車がないと動けない。
- 観光向けの村とは思えない。
- 雄大な自然がある。

2

③

2.良かった点

- 滝行・・・貴重な体験。
- カヌー・・・自然に囲まれている。癒し。カヌーでしか行けないところへ行くことができる。
- 星空・・・感動。都会では見られない数の星。
- さわ屋・・・おばあちゃんの人柄が魅力的。（住民全体に言える。）
- くりぴー・・・ゆるキャラがいることでテンションが上がる。触れ合いたくなる。

3

④

3.改善すべき点

- 道の舗装（遊歩古道等）
- 松原スポーツ公園のグラウンドの整備不足
- 村へのアクセスが難しい
- 看板・標識の表示が少ない
- 王滝村自体の知名度が低い
- PRが甘い
- 虫対策
- 猿・イノシシに対する住民のイメージの改善
- 積極性が総合的に足りない

4

⑤

4.若い女性目線での改善案

3で挙げた事柄に対して・・・

- 松原スポーツ公園の整備
  - ドッグラン（犬と泊まれる宿も）
  - 合宿
- 村へのアクセスが難しい
  - オンデマンドバス（木曽福島から）
  - 道案内の標識の設置
- 看板・標識の数が少ない
  - 観光案内の看板・標識の設置

5

⑥

- 王滝村自体の知名度が低い
  - くりぴーによるPR
    例えば・・・ゆるキャラグランプリ、YouTube・SNS等に投稿
  - 跡見学園とのパートナーシップ協定を活かす
    例えば・・・大学祭に参加する
- PR方法が甘い
  - HPの構成を見直す（シンプルに）
  - どんぐりサブレのパッケージにくりぴーをつける
  - 首都圏でイベントを開催する

6

⑦

- 猿・イノシシに対するイメージの改善
  - 猿が滝行をする（人工の滝）
  - イノシシ村

その他の事柄について・・・

- アート・芸術の村というイメージをつくる
- イケメンインストラクターグループをつくる（滝行・カヌー）
- 林間学校・スポーツ合宿の地として定着させる
- 星空観察のガイド付きバスツアー
- 森林鉄道線路跡をサイクリング(例　飛騨市)

7

⑧

- 国有林での観光を可能にする（ネイチャーガイド付きツアー）
- 住民が他の地域を見ることで、その地域と比較し地元の魅力を再発見する
  また、自分の土地に対して自信を持つ
- 住民の方々の親切さを活かし、「人に会いに行く」ことを目的に観光に来るようにする。（人物観光）
- 雨の日の際の観光として、室内での体験プランをつくる。（ヒノキ・郷土料理）

8

信濃毎日新聞2015年９月１日朝刊

復興へ 女子大生の力

跡見学園女子大 新たな観光資源提言へ

噴火後の状況学び村内見学

王滝

跡見学園女子大（本部・東京）で観光と地域づくりを学ぶ学生16人が31日、木曽郡王滝村を訪れた。4日間滞在し、昨年9月の御嶽山噴火からの復興を支援しようと、観光業者らの声を聞き、新たな観光資源を村に提言する。初日は早速、村の産業の歴史を村職員から熱心に聞くなどした。

王滝村の中心部を歩く跡見学園女子大の学生ら

同大と研究などで相互協力する協定を結んだ県が仲介した初の取り組みで、観光デザイン学科の磯貝政弘教授（61）のゼミの3年生が滞在している。事前に村の特徴や様子を学んでやってきたという。

学生たちは最初に松原スポーツ公園を訪れ、噴火災害の犠牲者を慰霊する献花台で花を手向け、黙とうをささげた。その場で大家・村おこし推進課長から、林業から観光業に主な産業が移ったが、昨年の噴火で厳しさが増した現状について説明を聞いた。

かつて同村と同郡上松町を結び、1975（昭和50）年に廃線となった王滝森林鉄道の車両に体験乗車したり、小中学校や診療所、村役場などがある中心部を散策したりした。御嶽神社里宮も訪れた。

七島由依菜さん（20）は「都会では絶対見られない（県西部地震でできた）自然湖を見たかった。観光での生かし方を考えたい」。横山幸さん（21）は「（火山が）危ないという印象もあったが、来てみると違った。こうした思い込みをなくす方法を考えたい」と話した。

1日以降は、村内のスキー場やキャンプ場、滝などを訪れるほか、村の人口減に歯止めをかける方策を考えている住民らと懇談。最終日に瀬戸普村長らに、御嶽山に次ぐ観光資源を提案する予定だ。

市民タイムス2015年９月１日

学生の視点 観光に生かす

跡見女子大 住民と懇談

王滝

地方版総合戦略の策定を進める王滝村総合戦略会議の委員と村の魅力を調べている跡見学園女子大学（本部・東京都）の学生が1日夜、大又のたかの湯で懇談した。県と村の共催で、御嶽山噴火災害の影響を受ける村内観光の状況について意見交換した。

県と跡見女子大との協力協定に基づき、観光デザイン学科の磯貝政弘教授（61）のゼミの3年生17人が、8月31日から3日まで村内に滞在している。田の原天然公園やおんたけ2240スキー場などを巡り、滝行も体験した。

四つの班に分かれて行った懇談では「御嶽山の噴火は知っていたが、王滝村のことは知らなかった」という声や、「滝を近くで見るだけでも新鮮。観光の要素になる」といった意見があった。

王滝村に対する感想を話す学生

信濃毎日新聞2015年９月４日朝刊

観光振興 県外学生のススメ

跡見学園女子大

火山と生きる

王滝の麓から楽しむ御嶽山

来月報告会

昨年9月の御嶽山噴火を踏まえて王滝村の観光を考えるため、村を訪れていた跡見学園女子大（本部・東京）の学生17人が3日、4日間の滞在で考えたことをまとめ、村公民館で中間発表をした。山頂へ登るばかりではなく「眺めながら麓で楽しむ」ことを掲げたり、村民に会うことを目的とする「人物観光」をテーマにしたりする案が出た。10月中旬に住民向けの報告会を開く。

村職員ら約20人が聞いた。学生たちは村について「村民が親しみやすい」「神秘的な場所がある」などとした半面、情報発信の不足、アクセスの難しさなどを課題に挙げた。御嶽信仰の信者らと同様に白衣を着て滝に打たれた体験が最も印象深かったとし、「滝行」を観光資源として捉え直すよう呼び掛けた。

都会暮らしで疲れたり失恋したりした「元気がほしい人たち」が民宿などに泊まって滝行や星空観察をする「ポジティブツアー」も提案。「魅力ある観光資源を磨き上げ、発信していくことが必要」とした。発表した一人、萩原優奈さん（20）は「住んでいる人と違う視点が伝わればいいなと思う」と話した。

王滝村の観光や地域づくりについて提案の中間発表をする学生ら

市民タイムス2015年９月５日

観光資源に水や自然湖

女子大生が振興策提案

王滝

王滝村で、村の観光振興策を調査していた跡見学園女子大学（本部・東京都）の3年生17人が3日、村公民館で中間報告をした。村職員らに対し、二つの班ごとにそれぞれ、観光資源として良いと感じた点や改善点を発表した。

1班は良い点として「水道水が市販の水よりおいしい」「御嶽神社や滝行、自然湖は神秘的」と挙げた。改善点には「情報発信力が乏しい」「村内でバスがほとんど走らない、レンタルサイクルが必要」と指摘した。

2班は、村民の温かな人柄に触れた経験から「親切な住民に会いに行く人物観光」を提案した。跡見女子大の大学祭で、村をPRする取り組みも示した。

学生たちは観光デザイン学科の磯貝政弘教授のゼミに所属し、3日までの4日間、村内各所を巡った。最終的な報告は10月に行う。

ゼミ長の坂田真希子さん（20）は「村を訪れ、いろいろな体験を通じ、観光で楽しめるものがあると分かった」と話していた。

（土屋智彦）

王滝の観光振興策について、調査結果を発表する学生

４．最終報告会

2015年10月16日（金）17時から王滝村公民館で最終報告会を開催した。本学からは私と学生代表２名がプレゼンターとして参加している。聴講者は王滝村役場職員と村内の観光事業関係者であった。また、この日も信濃毎日新聞が取材している。

信濃毎日新聞が熱心に取材に来てくれる理由の一つに、御岳噴火後の復興への足取りを具体的な取り組みを通じて確認するとともに、そうした取り組みを進めるうえでの問題点を把握し、メディアとして出来る限りの社会的提言をしようという意図があったのではないだろうか。同紙2015年９月26日朝刊に掲載された『御岳噴火１年　歩みだす山麓』と題する特集記事の次の記述にその思いが込められているように思われる。

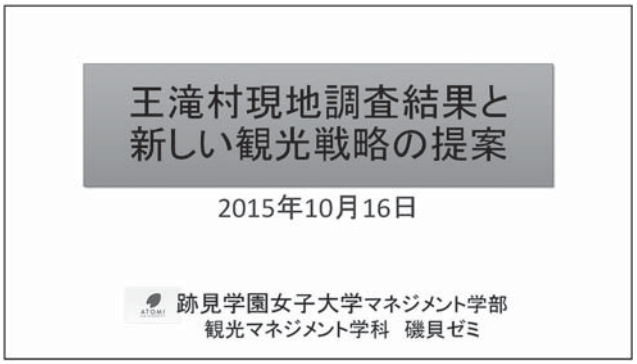
> 「需要は必ずあると思います」。跡見学園女子大学（本部・東京）の学生たちが、御嶽山山麓の新たな観光資源の一つに「滝行」を挙げた。３日、木曽郡王滝村公民館で、発表を聞いていた村職員ら約20人は意外そうな顔を浮かべた。
>
> 観光と地域づくりを学ぶ同大の学生たちの狙いは、「登山ばかりではなく、麓で楽しんでもらうには」。学生ら17人は４日間滞在して村内の御嶽神社里宮や湖などを巡って考えた。御嶽信仰の信者らと同様に白衣を着て、清滝に打たれた。学生の評価は、訪れた９地点で最高だった。（中略）これまで通りの発想では、山麓観光の復興はおぼつかない。ただ、学生たちの提案に、住民たちの反応は「厳かさが損なわれる」「山岳信仰の歴史を伝えられる」と割れる。
>
> 岐阜県側の山麓にある下呂市小坂町の市小坂地域振興課長、倉田誠さん（54）は学生らの提案を知り、「火山の恵みとしても打ち出せれば面白い」と受け止めた。滝は、火山活動が造った地形や雨量の多さに由来する。小坂町では有志が、特徴的な地質や地形を見られるジオパークの認定を目指す。

さて、こうした現状を理解したうえで、最終報告会の発表内容を考えることにした。そのためにも、学生たちが中間報告会で発表した内容を一段と深め、より多彩な選択肢を用意し、村民の多くに新しい取り組みへの積極的な参画を喚起することこそが最終報告書の最も重要な役割であると考え、学生ともその認識を共有すべく、ゼミで議論を続けた。

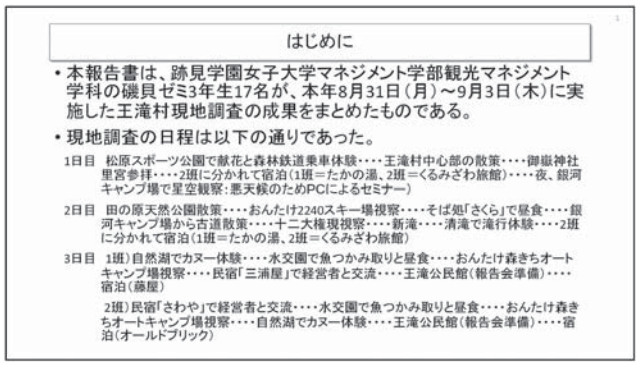
最終報告書は、中間報告会で学生たちが作成した報告書を基に、その後の議論経緯を加味して筆者が大幅に加筆してまとめたものである。なお、報告書最終ページに掲載した長期戦略は、筆者のこれまでの経験から浮かび上がったアイデアを書いたものである。

なお、次頁以降に転載したプレゼンテーションは、参考資料として先進事例などを紹介したシートなど一部を割愛し、再編集したものである。

①


王滝村現地調査結果と
新しい観光戦略の提案
2015年10月16日
跡見学園女子大学マネジメント学部
観光マネジメント学科　磯貝ゼミ

②


はじめに
• 本報告書は、跡見学園女子大学マネジメント学部観光マネジメント学科の磯貝ゼミ3年生17名が、本年8月31日（月）～9月3日（木）に実施した王滝村現地調査の成果をまとめたものである。
• 現地調査の日程は以下の通りであった。
1日目　松原スポーツ公園で献花と森林鉄道乗車体験・・・・王滝村中心部の散策・・・・御嶽神社里宮参拝・・・・2班に分かれて宿泊（1班＝たかの湯、2班＝くるみざわ旅館）・・・・夜、銀河キャンプ場で星空観察：悪天候のためPCによるセミナー）
2日目　田の原天然公園散策・・・・おんたけ2240スキー場視察・・・・そば処「さくら」で昼食・・・・銀河キャンプ場から古道散策・・・・十二大権現視察・・・・新滝・・・・清滝で滝行体験・・・・2班に分かれて宿泊（1班＝たかの湯、2班＝くるみざわ旅館）
3日目　1班）自然湖でカヌー体験・・・・水交園で魚つかみ取りと昼食・・・・おんたけ森きちオートキャンプ場視察・・・・民宿「三浦屋」で経営者と交流・・・・王滝公民館（報告会準備）・・・・宿泊（藤屋）
2班）民宿「さわや」で経営者と交流・・・・水交園で魚つかみ取りと昼食・・・・おんたけ森きちオートキャンプ場視察・・・・自然湖でカヌー体験・・・・王滝公民館（報告会準備）・・・・宿泊（オールドブリック）

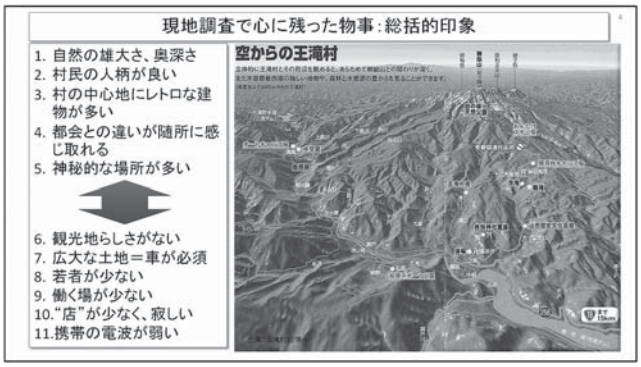
③

王滝村といえば
王滝村の象徴
御嶽山
大自然
山、水、森
生き物
信仰の山
聖地
山の生活
仕事、遊び
家族
「元気が蘇る」
火山と森と水のリゾート
写真出典：王滝村役場HP

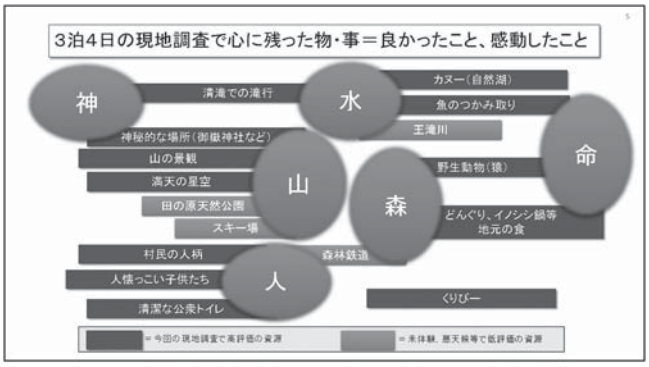
④

王滝村といえば、ただし・・・・
御嶽山は日本でならば、誰でも知っている。
しかし、
その山麓に何があるのか、
知っている人がどれだけいるのか？
その山麓の村の名前を
知っている人がどれだけいるのか？
王滝村を知る人が、
どれだけいるのだろうか？
長野県民でも、怪しいのでは？
新潟県
富山県
石川県
群馬県
福井県
長野県
埼玉県
岐阜県
王滝村
山梨県
東京都
神奈川県
愛知県
静岡県
出典：王滝村役場HP

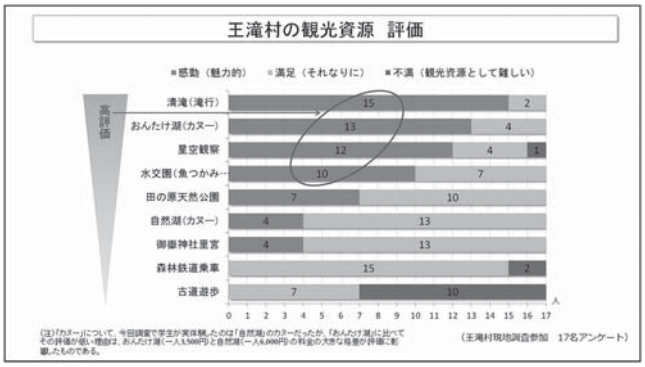
⑤


現地調査で心に残った物事：総括的印象
1. 自然の雄大さ、奥深さ
2. 村民の人柄が良い
3. 村の中心地にレトロな建物が多い
4. 都会との違いが随所に感じ取れる
5. 神秘的な場所が多い
6. 観光地らしさがない
7. 広大な土地＝車が必須
8. 若者が少ない
9. 働く場が少ない
10.“店”が少なく、寂しい
11.携帯の電波が弱い
空からの王滝村

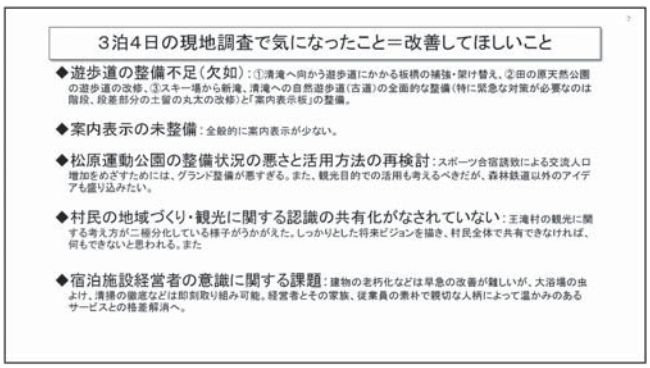
⑥


3泊4日の現地調査で心に残った物・事＝良かったこと、感動したこと
神
清滝での滝行
水
カヌー（自然湖）
魚のつかみ取り
王滝川
神秘的な場所（御嶽神社など）
山の景観
満天の星空
田の原天然公園
スキー場
山
森
命
野生動物（猿）
どんぐり、イノシシ鍋等
地元の食
村民の人柄
森林鉄道
人
人懐っこい子供たち
清潔な公衆トイレ
くりびー
＝今回の現地調査で高評価の資源
＝未体験、悪天候等で低評価の資源

⑦


王滝村の観光資源　評価
■感動（魅力的）　■満足（それなりに）　■不満（観光資源として難しい）
高評価
清滝（滝行）　15　2
おんたけ湖（カヌー）　13　4
星空観察　12　4　1
水交園（魚つかみ…　10　7
田の原天然公園　7　10
自然湖（カヌー）　4　13
御嶽神社里宮　4　13
森林鉄道乗車　15　2
古道遊歩　7　10
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 人
（注）「カヌー」について、今回調査で学生が実体験したのは「自然湖」のカヌーだったが、「おんたけ湖」に比べてその評価が低い理由は、おんたけ湖（一人3,500円）と自然湖（一人6,000円）の料金の大きな格差が評価に影響したものである。
（王滝村現地調査参加　17名アンケート）

⑧


3泊4日の現地調査で気になったこと＝改善してほしいこと
◆遊歩道の整備不足（欠如）：①清滝へ向かう遊歩道にかかる板橋の補強・架け替え、②田の原天然公園の遊歩道の改修、③スキー場から新滝、清滝への自然遊歩道（古道）の全面的な整備（特に緊急な対策が必要なのは階段、段差部分の土留の丸太の改修）と「案内表示板」の整備。
◆案内表示の未整備：全般的に案内表示が少ない。
◆松原運動公園の整備状況の悪さと活用方法の再検討：スポーツ合宿誘致による交流人口増加をめざすためには、グランド整備が悪すぎる。また、観光目的での活用も考えるべきだが、森林鉄道以外のアイデアも盛り込みたい。
◆村民の地域づくり・観光に関する認識の共有化がなされていない：王滝村の観光に関する考え方が二極分化している様子がうかがえた。しっかりとした将来ビジョンを描き、村民全体で共有できなければ、何もできないと思われる。また
◆宿泊施設経営者の意識に関する課題：建物の老朽化などは早急の改善が難しいが、大浴場の虫よけ、清掃の徹底などは即刻取り組み可能。経営者とその家族、従業員の素朴で親切な人柄によって温かみのあるサービスとの格差解消へ。

⑨

3泊4日の現地調査で気になったこと＝改善してほしいこと

◆交通機関が不便：少なくとも二次交通の不便さを解消する"サービス"の開発が必要。

◆村のPR不足：王滝村の知名度向上への取り組み強化が必要。観光用のホームページの改善を第一に、旅行会社、JRなどへの営業活動、マスメディアへの広報活動も専門部署を設けて推進する必要があると思われる。また、"くりぴー"の活用を積極的に進めるべき。

◆特産品の不足：「百草丸」を除けば、村の名物、特産品がない、あるいは知名度が低い。①「イノシシ鍋」などジビエ料理の開発、②「どんぐり」食の文化を普及し、村外に広く告知するための組織の確立、人材の育成、販売店の開発が必要、③「森の恵＝ひのき」工芸品など、加工型・職人型の地場産業の育成など検討すべきと考える。

◆その他：①携帯電話の電波状況の改善（特に若年層のニーズを意識して）、②害獣に対する村民意識と観光客の意識との乖離の克服なども重要な課題。

⑩

王滝村の観光　現状と課題

「御嶽山」が観光地（資源）という発想。
「王滝村」が観光地という意識が低い。

売るべき「旅行商品・ツアー」を創り出す	ターゲットを見直す	プロモーションを見直す
「御嶽山」を資源の一つにしつつも「王滝村」を観光する旅行商品を新たに造成すべき	「御嶽山」を観光資源と考えると、ターゲットは御嶽教と登山者に限定される	「観光立村・王滝」のホームページとしては中身・内容が不十分
↓	↓	↓
「観光」に対する意識変革（観光地は創り出すもの）	ターゲットを見直し、新たな旅行商品を広く流通させる	旅行商品・ターゲットを見直し、ホームページを更新
↓	↓	↓
神社も滝も立派な観光地	観光客は「来る」でなく「呼ぶ」	利用者目線でのＨＰ作成

⑪

売るべき「旅行商品・ツアー」を創り出す

1. 観光コンテンツのボリュームアップ、多彩化

2. 旅行商品・ツアーの提案

⑫

観光コンテンツのボリュームアップ・多彩化の提案

◆森林鉄道
松原公園の周遊コースで運行するのも、鉄道ファンには魅力的。だが、若い女性など広い客層を取り込もうとするならば、車窓からの眺望を売り物にできる王滝川沿いや王滝村役場から田の原天然園までの登山路に沿って新規に線路を敷設するなどの本格的な事業化が望まれる。また、夜の運行で「天の川観賞列車」のような商品作りも検討されるべきと考える。
さらに、「レールマウンテンバイク」も観光資源として導入することを検討しても良いのではないだろうか。

◆おんたけ2240スキー場でのパラグライダーなどのアウトドア系アクティビティ導入。

◆松原スポーツ公園に大型ドッグランの設置やサル山、イノシシ村など王滝の害獣を使った小動物園の開設。

◆雨天用に屋内での体験観光コンテンツ開発。

◆百草丸、どんぐりなど地元の産物を使った「フェイスマスク」や"ひのき"を使った工芸品、愛犬用の木のおもちゃのような間伐材や端切れを活用した商品やスイーツなどの「食」の開発など、新しい特産品づくりによる王滝村の知名度アップ。

◆村の観光や物産の宣伝に、もっと「くりぴー」を活用すること。

⑬

その他コンテンツの提案（1）：王滝村の食プロジェクト　どんぐりつけ麺

どんぐりつけ麺

・漫画「暗殺教室」の中に、「どんぐりつけ麺」が登場。

・クックパッドで実際に「どんぐりつけ麺」を作った人がレシピを掲載。
http://cookpad.com/recipe/3335976

⑭

その他コンテンツの提案（2）：王滝村の食プロジェクト　木犀舎のケーキ

木犀舎のケーキ

1班がお世話いただいた旅館「藤や」の女将さんが連れて行って下さった「カフェ木犀舎」で、「りんごのタルトのようなケーキの上にピザ用のチーズ」が乗った、メニューにはないケーキにびっくり！

りんごとピザ用のチーズのコラボは、初めての体験！その斬新さと美味しさが、忘れられない。もう一度、食べたい!!

写真出典：跡見ゼミ学生撮影

⑮

ツアーの提案（1）　ポジティブツアー

◆ テーマ
大都市での生活、仕事に疲れたと感じている人が、元気を取り戻して再び大都会での生活や仕事を活き活きとできるようになること。

◆ ターゲットとするマーケットセグメント
都会で生活する若い女性＝女子大生、独身OL、既婚でまだ子供のいないOL。

◆ ツアーの内容：1泊2日
1日目　田の原天然公園散策＝＝自然湖でカヌー体験＝＝宿（夜は星空観賞）
2日目　御嶽神社里宮参拝＝＝御嶽古道散策と霊山碑巡り＝＝清滝で滝行（昼食はどんぐりを使った弁当）

＊王滝村発着の小型バスを使ったツアーとする。全行程現地ガイド付き、参拝、滝行は先達が指導。

⑯

ツアーの提案（2）　森林鉄道跡トレッキングツアー

◆ テーマ
森林鉄道跡地をたどりつつ、王滝村の自然資源の豊かさを感じ、過去、現在の山の生活に思いを馳せる。

◆ ターゲットとするマーケットセグメント
自然への関心が深い人から、自然の中で癒しを求めるトレッキングの初級者や女子大生まで。コースによって、それぞれの訴求対象を考える。

◆ツアーの内容：日帰りから2泊3日程度まで
次ページ以降に例示した奥津軽の事例などを参考に考える。

⑰

ツアーの提案（3） ネイチャーガイド付き御嶽山麓ハイキング

◆ テーマ
御嶽山麓に広がる高原ハイキング、木曽ひのきの森（国有林）や渓流を散策しながら、ネイチャーガイドによる多彩な植物、昆虫、動物観察を楽しむ。夜は満点の星空観察。

◆ ターゲットとするマーケットセグメント
小学生程度の子供を持つファミリー層から“山ガール”系OL、女子大生や山歩きを楽しむ中高年男女。

◆ ツアーの内容：1泊2日
1日目　田の原天然公園散策＝＝おんたけスキー場ハイキング
　　＝＝宿（夜は星空観賞）
2日目　王滝川の支流を散策

＊全行程、専門のネイチャーガイドが案内。

⑱

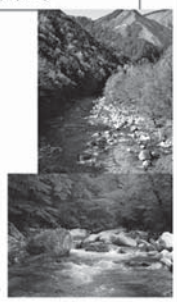
ツアーの提案（4） 王滝川支流の渓谷ハイキング

◆ テーマ
王滝川とその支流うぐい川、瀬戸川などの景観に優れた渓谷をネイチャーガイドとともに国有林の植生、多彩な草花、昆虫、動物観察を楽しむ。

◆ ターゲットとするマーケットセグメント
スイスアルプス、ヒマラヤ、カナディアンロッキーなどのハイキング、トレッキングツアーに参加するコアなファンからビギナーまで。

◆ ツアーの内容：日帰りから2泊3日程度まで
＊ビギナー向けコースは、天候を見て参加を決める人も受付できるようにする。

＊全行程、専門のネイチャーガイドが案内。



写真出典：王滝村役場HP

⑲

⑳

王滝村の認知度を上げるために～村外での取り組み～①

1. サービスエリアで王滝村の名産品や“くりぴーグッズ”を販売する。
→既存の物に加え、新しい物も作る。
→“サービスエリア”に立ち寄る不特定多数に、品物を通して王滝村の存在を知ってもらう。

2. YouTubeで、“くりぴー”のおもしろい映像やインパクトのある映像を全世界的に発信する。

㉑

王滝村の認知度を上げるために～村外での取り組み～②

3. 長野県・愛知県の大学とのタイアップ
→ゼミやサークルなどの活動の一環として、王滝村に滞在、または研究テーマに取り上げてもらえるようにする取り組み。
→そのために、王滝村のさまざまな情報（産業・物産、歴史、気候、自然、生活、コミュニティとしての課題など）を発信する取り組みを、SNSや冊子、チラシなどによって推進する。
→まずは、王滝村へアクセスしやすい長野県・愛知県の大学を対象に実施する。
→発信する情報は、①若い人の視点から、②新たな切り口を見つけて作成する。

㉒

王滝村の認知度を上げるために～村外での取り組み～③

4. 跡見学園女子大学とのタイアップ
→跡見学園女子大学のグッズ(アトミンティア、Atomi ‘s、文房具、あぶらとりがみ、ミラーなど）と“くりぴー”をコラボさせる。
→オープンキャンパスや紫祭（ゆかりさい：毎年10月下旬～11月上旬に開催される跡見学園女子大学の学園祭）などの催しで、“くりぴー”グッズを参加者に配布する。
→オープンキャンパスで磯貝ゼミの活動紹介において、王滝村のPRを行う。
→磯貝ゼミで紫祭に出展し、王滝村の物産、パッケージツアーのPR及び販売をする。

㉓

王滝村の認知度を上げるために～村内での取り組み：イベント～①

1. 王滝村の地形を活用したイベントの開催
例えば、
スキー場で開催する「チーズころがし祭り」

2. 食べる・仮装する・観るマラソン大会の開催
例えば、
ゾンビラン、バブルラン、スイーツラン

3. 王滝“スモール”花火大会の開催
例えば、
手持ち花火大会（例　大阪市天保山）
線香花火大会（例　秋田県横手市）
小さな花火大会(代官山、石川・湯涌温泉、京都・八坂など)

㉔

王滝村の認知度を上げるために～村内での取り組み～②

4. 空き地や空き施設の活用
大学のゼミ、運動部や学習塾、受験生の合宿のメッカとなるための体制づくり（学生村など）

5. 田の原天然公園の積雪期の活用
スノーシューによるガイド付きトレッキング・イベントの開催（関田高原などで実施事例がある）

6. 松原スポーツ公園のエンタテインメント空間化
森林鉄道線路をレールマウンテンバイクで走行するイベントの開催
サル山、イノシシ村など地元の害獣を集めた小動物園開設

㉕

㉖

王滝村の観光への提言：直近の課題解決へむけて

提案		内容
1	ホームページの更新	➢観光のＨＰであると一目でわかるバナーへの変更 ➢アウトドア（脱御嶽山）中心のページ構成に変更 ➢わかりやすい構成に変更 ➢王滝村を観光できる地図作成
2	情報発信の強化	➢観光客は「来る」ではなく、「招く」もの ➢様々な媒体を活用して、情報発信力を強化 ➢ターゲットを明確にする
3	おんたけ2240スキー場跡地の植栽修復	➢有名造園家（デザイナー）に委託 ➢公募によりボランティアで植栽
4	王滝森林鉄道復活作戦	➢鉄道ファン自らによる鉄道敷設 ➢王滝森林鉄道応援団を募集 ➢森林鉄道の活用や登山鉄道の敷設（王滝村中心部～田の原天然公園）の検討

㉗

王滝村の観光への提言：直近の課題解決へむけて

提案		内容
5	観光ガイドなど王滝村の観光事業を担う人材の育成	➢村内の観光地を案内できる女性ガイドの育成 ➢御嶽山や滝行を紹介できるガイドの育成 ➢宿や食、物産づくりなど観光事業の担い手の育成（外部からの招聘）
6	村内移動手段の確保	➢村内の観光地を移動する交通手段の確保 ➢特に滝越地区への移動手段 ➢木曽馬など地域特性を生かした移動手段の検討
7	ATOMI旅行社（仮称）によるツアー催行	➢学生（大学）主体の旅を行会社を立ち上げ ➢「いのち呼び覚ますところ　スピリチュアルロードおんたけ王滝」をテーマにツアーを企画 ➢冬（スノーシュー＆山の鍋）、春・夏（滝行＆田の原等）のツアーを自ら販売 ➢ＪＴＢ中部との連携

㉘

22世紀の王滝村構想の提案

◆22世紀へむけて

果てしない競争社会に疲れた都会人が憧れる聖地、王滝村となるために次のようなことを村人全員で考える時期が到来したのではないだろうか？テーマは、果てしない生存競争に疲れた都会人の心身が蘇生される聖地・王滝村。

（1）村民が王滝の歴史と森と水の恵みを基に体現する「王滝式幸福論」の提案。
（2）何度も訪れたくなる、移住したくなる集落の景観（デザイン）づくり。
（3）御嶽山を中心とする自然の荘厳な精神性（心のよりどころとしての）の新しい表現方法の確立。
（4）王滝式交通システムの構築。
（5）自立した経済基盤づくり。（大量生産・大量消費型システムと対極的な少量生産・少量消費型高付加価値産業）

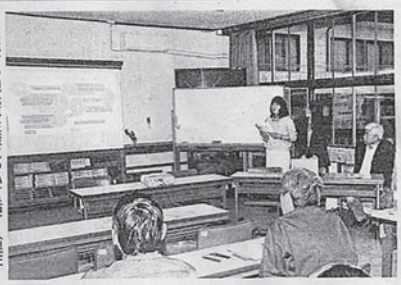
◆将来構想を検討するための有識者会議開催の提案

平成28年度に4～5回開催、原則として村外の有識者（観光、経済、デザイン、マネジメントなどの分野から4～5人）4による構想の検討と村民への検討内容の周知をすることを提案します。

2015年10月17日信濃毎日新聞朝刊

夏に村滞在　跡見学園女子大生

観光再生へ「自然生かして」


王滝村の観光再生策について話す（奥左から）桜井さん、坂田さん、磯貝教授

昨年の御嶽山噴火で客足が落ち込んでいる木曽郡王滝村の観光再生を考えるため、この夏に村に滞在した跡見学園女子大（本部・東京）の磯貝政弘教授とゼミの学生2人が16日、村公民館で報告会を開いた。都会での生活や仕事に疲れた人を対象に、滝に打たれることを含めた新たな旅行商品の開発などを提案した。

山麓や渓流ハイキング・星空観察…村民に旅行商品提案

御嶽山噴火1年

火山と生きる

王滝

同大と研究などで相互協力する協定を結んだ県が仲介した初めての取り組みとして、観光デザイン科の3年生17人が8月末から3泊4日で訪れた。学生たちは、カヌーに乗ったり、滝に打たれたりしたほか、林業から観光業に主な産業が移った村の歴史や、噴火で厳しい現状などについて村職員から説明を受けた。

この日は、村民ら20人余が集まった。学生を代表して桜井美里さん(21)、坂田真希子さん(20)が訪れた。2人は「自然の雄大さ」「滝や神社などの神秘的な場所がある」といった点を魅力として強調。一方で「車がないと動けない」「観光地っぽさがない」と指摘し、遊歩道の整備不足や特産品が少ないなどの課題を挙げた。

松原スポーツ公園内にある王滝森林鉄道に乗るだけでなく、夜も運行して星空を見るなどの案を紹介。ガイドと一緒に歩く御嶽山麓のハイキングや、王滝川支流の渓流ハイキングなども提案した。ドングリをイメージした村のキャラクター「くりぴー」を生かした商品開発や、村のホームページの改良なども挙げた。

参加した旅館のおかみは「星空の美しさをもっとアピールしようと思う」と発言。村おこし推進課の的場正一・地域推進参事は「ホームページの改良はすぐに取り組もうと思う。いくつかのハイキングは実現できる可能性がある」と話していた。

桜井さんは「前向きに受け止めてくれた人もおり、参考にしてくれそうな印象を持った」。坂田さんは「民宿の女性から噴火で観光客が減っていると聞いた。少しでも役に立てばうれしい」と話した。

５．学生たちの旅行行動についての一考察

現地調査で王滝村に滞在した４日間、学生たちの様子を観察するなかで気付いたことを２点だけ書き留めておきたい。どちらもまだ今後の研究へのヒントを記したメモに過ぎないが、デジタル・ネイティブと称される世代の旅行観、旅行行動の特徴を考察するうえでの一資料として、多少なりとも参考にしていただければ幸いである。

(1) どこでも、まずはスマホで記念写真

17名の学生たちの旅行中の行動の中で最も特徴的なことは、どこへ行ってもまずはスマホを取り出して記念写真を撮る姿だった。

御嶽神社里宮の参道に据えられた巨大な石の五円玉を見つけると、その前で仲の良いもの同士で写真を撮り合い、バスの中から美しい湖が見えた途端に、背景に湖水が入るように自写。写真の中に必ず自分が映り込んでいなければならない。また、宿の食卓を毎度毎度写真に撮って、その場で母親に送ったという学生もいた。

撮られた写真はその場でツイッターやライン、インスタグラムなどSNSにアップされる。旅先での写真は、決して過去を振り返るためのものではなく、今、その時に自分がどこにいて、何をしているのかを友達や家族に見せ、見せつけ、見せびらかし、自慢するための手段であるらしい。

また、一見ランダムにみえた撮影ポイントだが、実は一定のルールがあることがわかった。第一にインターネットやテレビなどで「いま最も話題を集めているスポット」であること。次に美しさ、可愛いさや珍しさが直感的に感じられるスポットであること。

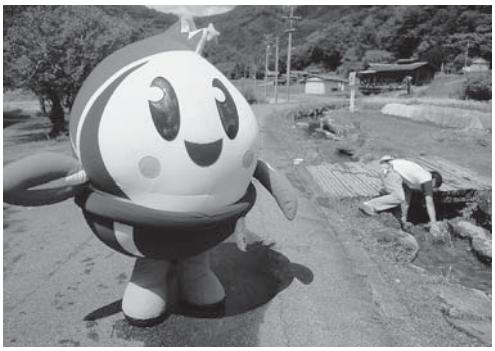
こうした特徴が、大学３年生に代表される年齢層に限定されるものなのかどうか。また、このような特徴が生まれた原因は何か。それはスマートホンの登場と関連して考えるべきものなのか、生まれた時からインターネットを介したコミュニケーションに慣れ親しんできたデジタル・ネイティブという世代的特性に起因するものなのか、あるいは好景気を一度も経験しないまま成長し、年金危機など将来不安ばかりが言われ続けてきた世代的な世界観、心理に起因するものなのか。研究対象と調査手法を拡大し、研究を進めなければまだまだ断定ができない課題ではあるが、将来的な日本人の観光行動を予測するうえで避けて通れないテーマであることは間違いないと思われる。

(2)「かわいい」が溶かす現実と非－現実の壁

現地調査で訪れた先々に「くりぴー」が出現した。学生たちにとってはインターネットを通して既知の存在だったが、それが出現する度に学生たちは驚き、歓声をあげた。道路の路肩にニホンザルが出てきた時と同じ反応が、学生たちの表情に浮かんでいるような印象を受けた。可愛らしいということでは、現実のニホンザルも非現実の「くりぴー」も同等の存在であるかのような印象を持った。

学生たちの幼さが露呈しただけのことなのかもしれないが、そればかりでもないような気がする。むしろ、インターネットのバーチャル空間に生存する非－現実の存在といえども、それが「かわいい」と感じられた時、生身のニホンザルと同じように、現実的存在として受け入れることができてしまう、そうした能力がしっかりと身に備わっている

「くりぴー」



写真提供：王滝村役場

ような感じがした。別の言い方をすれば、現実の存在であろうと非－現実の存在であろうと、「かわいい」と感受された時点で、日常空間と非日常空間が融合し、すべてが「幸福の世界」に移行してしまうといようなことが起こっているのかもしれない。

「かわいい」が開示する幸福の空間。そこで出会うものすべてが新鮮で、親密な感情を持って自分を受け入れてくれる。「かわいい」を感じさせてくれるものは、村の古老であったり、素朴で優しそうなおばさんであったり、小学生であったり、イノシシ鍋や五平餅のような郷土料理であったりする。

こうしたことが、学生たちの世代の特徴として特記されるべきものなのかどうか、より多くのサンプルを対象にした調査によって、定性的、定量的に証明する必要を感じる。

第２章　峰の原高原ペンション村インターンシップ

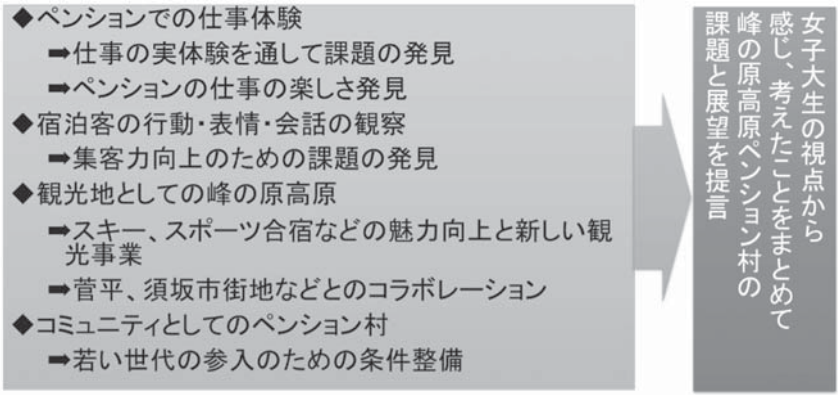
１．峰の原高原ペンション村プロジェクトの目的と再熱事業

長野県は平成25年度から「集落〝再熱〟実施モデル地区支援事業」を推進している。この事業は、「市町村と住民が一体となった、自分たちの暮らす地域の存続のための取組に対し支援を行い、その成果を検証して発信することにより、各地域への広がりを期す」という趣旨に沿って、モデル地区に選定された市町村が２年間をかけて事業を遂行するものであり、長野県はそれに対して一定の補助金を交付する。

事業の１年目は「集落“再熱”ビジョンの策定（ビジョン策定期）」として、地域調査や講演会・ワークショップの開催、地域存続のための取組に係る先進地　視察・研修会への参加、ビジョン策定に必要なデータ収集を行うための試行的事業などを実施し、２年目は「ビジョンの具体化・着手（実証・準備期）」として、コーディネーターの設置（移住者の職のマッチング、住まいの希望等を調整）、新規就農者の研修支援（就農に必要な研修経費を支援）、情報発信の強化（ホームページの開設）などを実施するというものである。

須坂市峰の原高原地区は平成26年度に同事業のモデル地区に選定された。「峰の原高原ペンション村インターンシップ」プロジェクトは、①長野大学環境ツーリズム学部「天空のキャンパス・まるごと集客大作戦」、②㈱クリーク＆リバー「建築家による空きペンションを有効利用した地域活性化の提案」、③須坂市地域おこし協力隊「ペンションオーナー暮らし体験」、④唐沢日香里氏（早稲田大学政治経済学部３年）「峰の原高原交流ツアー」とともに、須坂市の「集落“再熱”実施モデル地区支援事業」の２年目事業の一環として実施されたものである。

その目的は、2015年７月１日（水）に須坂市役所で開催された「峰の原高原集落再熱実施モデル地区支援事業キックオフ連絡会」において、以下のフローチャートを用いて筆者が説明した。



なお、インターンシップは１班（学生６名）が2015年９月７日（月）～９月13日（日）、２班（学生６名）が2015年９月９日（水）～９月15日（火）で実施した。

２．事前学習

2015年７月14日18：00から、新座キャンパスにおいて峰の原高原およびペンション村についての事前学集会を開催した。須坂市総務部政策推進課信州須坂移住支援チーム係長加藤広明氏、地域おこし協力隊員松田祐樹氏、峰の原高原観光協会会長古川茂紀氏が、インターンシップ期間中の注意事項、服装などに関するアドバイスとともに、峰の原高原およびペンション村の魅力と課題について、写真、動画を交えた講義をインターンシップに参加予定の学生12名に対して行った。

事前学習会で語る峰の原高原観光協会長　古川茂紀氏

写真提供：須坂市役所

また、事前学習（１回は事後に実施）の一環として、長野県が主催する下表の移住関連セミナー、相談会に一人３回以上参加し、運営をサポートしながら、長野県へ移住した人たちの体験談などを聴講した。会場はいずれも東京都内であった。

開催月日	セミナー、相談会名	開催場所
７月25日（土）	なでしこ移住アカデミー	銀座 NAGANO
８月８日（土）	県内市町村による移住相談会	ふるさと回帰支援センター
８月22日（土）	二地域居住に関する移住セミナー	銀座 NAGANO
９月26日（土）	ゲストハウス経営者による移住セミナー	銀座 NAGANO

学生たちにとって、大都市圏を離れてＩターン、Ｕターンした人たちの体験談を直接聞くことができたこと、また、ペンションやゲストハウスという業態に関心を持つきっかけを得たことなど、非常に貴重な勉強の機会が得られたものと思われる。

３．インターンシップの概要

長野県須坂市峰の原高原ペンション村におけるインターンシップは、以下の日程で実施された。１班、２班ともに６名の学生が参加した。

１班　2015年９月７日～９月13日（６泊７日）

２班　2015年９月９日～９月15日（６泊７日）

日　数	時　間	内　　容	仕事＆ 宿泊ペンション	食　事
１日目	PM	・全体オリエンテーション ・ペンション村全体案内	A	昼なし
（１泊）	６人全員で同じペンション A へ宿泊		A	①夕
２日目	AM	・全体学習（歴史、自然）座学	A	②朝
	PM	・２人ずつ×３ペンションに分かれ仕事体験①	B	③昼
（２泊）	仕事体験①のペンションへ宿泊（２人ずつ３ペンション）		B	④夕
３日目	AM	・仕事体験①実施	B	⑤朝
	PM		B	⑥昼
（３泊）	仕事体験①のペンションへ宿泊		B	⑦夕
４日目	AM	・仕事体験①実施	B	⑧朝
	PM	・ペンションを移動し仕事体験②実施	C	⑨昼
（４泊）	仕事体験②のペンションへ宿泊（２人ずつ３ペンション）		C	⑩夕
５日目	AM	・仕事体験②実施 （２班は９月13日に峰の原スキー場にて開催された自然観察会に参加）	C	⑪朝
	PM		C	⑫昼
（５泊）	仕事体験②のペンションへ宿泊		C	⑬夕
６日目	AM	・仕事体験②実施	C	⑭朝
	PM	・全員で須坂市内を見学、農業体験など	A	⑮昼
（６泊）	６人全員で同じペンションへ A 宿泊		A	⑯夕
７日目	AM	・意見交換会等 （１班は９月13日に峰の原スキー場にて開催された自然観察会に参加） ・終了、昼食	A	⑰朝⑱昼

４．峰の原高原集落“再熱”実施モデル地区支援事業中間報告会

2015年12月13日（日）13：00～16：30に東京都中央区京橋１－１－６越前屋ビルの移住・交流情報ガーデンで開催された「峰の原高原集落“再熱”実施モデル地区支援事業中間報告会」で、学生たちはインターンシップを通して得た知見を基に、峰の原高原およびペンション村の魅力と問題点を整理したうえで、将来的なペンション経営の在り方、峰の原高原の魅力づくりについて提案した。

各班20分の持ち時間で実施したプレゼンテーションを聞いていて感じたことは、学生たちとペンション経営者との認識のズレであった。学生たちは、旅行者＝消費者としての視座から峰の原高原とペンション村を評価し、多彩なアクティビティや利便性などを強く要求するのに対して、報告会に出席していたペンション経営者たちは戸惑いを隠しきれない様子がうかがえた。それは学生たちとペンション経営者との間に横たわるリゾートという空間に対する認識の違いに由来するように筆者には思われた。信州の高原リゾートでそれぞれが思い描いていたライフスタイル（脱－消費社会的生き方）をペンションという城を持つことによって実現した経営者たちの目には、学生たちの諸提案があまりにも消費社会的なものに見えたのではないだろうか。

学生たちも認めるように、それぞれのペンションのオーナーの個性は強く、それを反映した個性的なサービスがペンションのそれぞれの魅力を形成していることは事実だろう。しかし、問題は峰の原高原でのペンション経営が年々厳しい状況を深めていることである。1974年に最初のペンションが営業開始し、最盛期には80軒ほどが営業していたようだが、現在では50軒程度にまで減少したという。この事実をどのようにとらえるべきか。さらに、高齢化した経

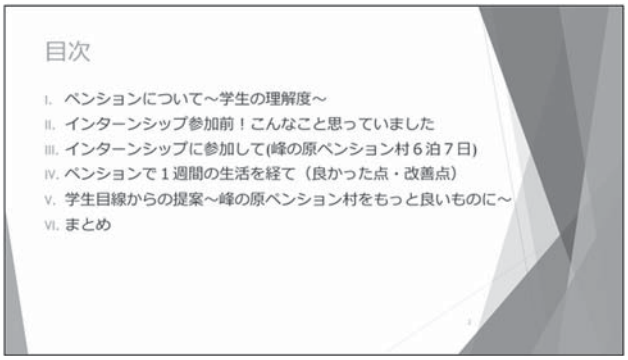
営者の元に後継者が現れず、近い将来にはペンション村そのものが消滅することも懸念される現況をどのように打開するべきなのか。あるいは打開しないという選択肢を取るべきなのか。いずれにしても、ペンション経営をしながらリゾートで暮らすことをライフスタイルそのものとして目的視する経営者の価値観と消費行動としてペンションライフを捉えるマーケット・ニーズとの間でどのような折り合いがつけられるのか。そうしたことを考えるきっかけを与えてくれたという意味でも、学生たちのプレゼンテーションには大きな意義があったと思う。参考までに、以下に学生たちがプレゼンテーションで使用したパワーポイントを掲載した。

写真提供：須坂市役所

①

③

②



④

⑤

実際に行ってみました！！

- 今年(２０１５年)の９月７日～９月１３日の６泊７日間泊まり込みで行かせていただきました！

１泊目（ペンション・スタートライン）	２-５泊目（各班振り分けられたペンション２-３か所）	６泊目（ペンション・スタートライン）
自己紹介・班分け		インターン総括
	各ペンションにて	（各班ごと）
ペンション村散策	オーナーさんの指示から行動	
ミーティング	(この間、地元小学校への訪問、須坂市内観光があった)	（翌日、山野草の観察会に参加）
(インターンを始めるにあたり)		

各ペンションの皆様、峰の原の皆様、そして須坂市の皆様には大変お世話になりました！！

⑥

行ってみてどうだったか？

- **“ペンション”**に対して
  - ペンションの『洋風民宿』としての良さを知り、深く実感できた！
  - オーナーさんや他のお客さんとの交流が今までの旅行とは違って新鮮だった
- **“峰の原”**に対して
  - 星がとても綺麗だった！
  - 近所付き合いの良さが感じられた
  - 山野草やキノコなど標高が高い土地なのに種類が多くて驚いた
  - とても静かでゆったりした時間が流れているところだった
  - 料理やコンセプトなどそれぞれのペンションの個性が出てるのが良かった

⑦

- **街灯が少なく、夜道を歩くときは怖かった。**
  ⇒センサー式LEDライトやペンションで貸出用のランタンを準備する。
- **飲み物が高い。**
- **遊び場所・お土産屋さんがない。**
  ⇒特に悪天候時やシーズンオフ、観光客にとっては何もすることがなくなってしまうのではないか？
- **寂しげな景観が多くなってしまっている。**
  ⇒やっていないペンション、人気のなさ、アスファルトにまで伸びてしまった雑草これらは特に寂しげな印象を与えてしまっているのではないか？（景観の統一）

もったいない！！！

⑧

学生目線からの提案

- **体験プログラムの実施（写真立て制作、キャンドル作り など）**
  ⇒悪天候になってしまった場合でも楽しめる要素を盛り込んでいく
- **アスレチックやツリーハウスなど遊び場の設置**
  ⇒小さな子供がペンション近くでも気軽に遊べるように
- **峰の原で栽培された果物や野菜などを提供できるカフェや食堂**
  ⇒話題性＆特別性(標高1500メートルのオーガニックカフェ など)
- **地域全体の景観の統一**
  ⇒暗く寂しげな印象を払拭するような明るい景観に
- **手書き地図の再編集**
  ⇒最新版の作成、ペンションごとの特徴など書き込んでも
- **広報活動を活発にしていく(ペンション村ＨＰ制作、ＳＮＳ、紙媒体 など)**
  ⇒認知度が低いためもっと多くの人が知るような広報のやり方を

⑨

お世話になったペンション

- ペンション スタートライン（古川さん）
- ペンション 木まま（綱木さん）
- ペンション きら星（淡さん）
- 菅平・峰の原高原 時空の杜（松本さん）
- ペンション ふくなが（福永さん）
- ペンション ガーデンストーリー（山下さん）

⑩

峰の原ペンション村 インターンシップ

跡見学園女子大学
マネジメント学部　観光マネジメント学科　2年

⑪

目次

- **峰の原について**
  - 峰の原ペンション村
- **インターンシップ実習内容・峰の原で体験したこと**
- **峰の原・ペンションのいいところ**
- **峰の原・ペンションで不便に感じた点**
- **峰の原高原活性化に向けての提案**
- **感想**

⑫

峰の原について

- **長野県須坂市**
  - 長野県の北西部に位置
  - 長野市、上田市に隣接
  - 蔵の町
  - 全国有数のリンゴ・巨峰の産地
- **峰の原**
  - 根子岳の山麓・標高約1500メートル
  - 上田駅からバスで1時間弱
  - 夏季平均気温19℃
  - 陸上の高地トレーニング場
  - 冬はスキー場

⑬

峰の原ペンション村

- ペンションとは
  - 民宿のうち、建物が西洋風の外観・内装で、食事も主に西洋料理を提供する宿泊施設
  - 日本では家族経営であることが多く、小規模
  - Pension＝「年金」
    退職後に年金生活をする高齢者夫婦が自宅で空き部屋を利用して宿泊施設を運営したことに基づく

Wikipedia「ペンション」 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AA%E3%82%BE%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%9B%E3%83%86%E3%83%AB (2015年12月9日)

- 峰の原ペンション村
  - 1971年に最初のペンションが開業して、約40年が経過
  - 現在、約50のペンションからなる

⑭

実習内容・峰の原で体験したこと

- 9月9日～15日　6泊7日
- 各自3か所のペンションに宿泊
- ベッドメイキング、食事準備・配膳、清掃
- ツアープラン作成

- 須坂市見学
- 根子岳登山
- りんご狩り
- 草原観察会
- キノコ採り
- 菅平小中学校見学
- 陸上トレーニング施設、スキー場、菅平グリーンゴルフ見学

⑮

峰の原・ペンションのいいところ

- 自然が豊富
- スキー場やトレーニング施設が充実
- キノコ採りなどの都会ではできない体験ができる
- 食べ物が美味しい
- 星がきれい

- アットホームな雰囲気
- 他の宿泊客との出会い
- 様々な種類のペンションがある
- 客それぞれに細やかなおもてなし

⑯

峰の原・ペンションで不便に感じた点

- 交通の便が悪く、車がないと不便
- 街灯が少なく夜は真っ暗
- コンビニなどのお店が近くにない
- 峰の原周辺にどのような観光施設があるのか分からなかった
- ペンション内にゴミ箱が少ない
- 実際に訪れるまでペンションごとの特徴などが分からない
- ペンションの場所が分かりづらく迷いやすい

⑰

峰の原高原活性化に向けての提案

- 街灯（イルミネーション）の設置
- 送迎のサービス
- コンビニやスーパーを増やす
- ご飯を食べるところを増やす
- 分かりやすい案内板を設置する
- ペンションに子どもの遊べる遊具を作る
- ペット宿泊可能なペンションを増やす
- 花を増やして明るくする
- HPのペンション一覧の写真をもっと良い写真に変える
- Mr.ヌーキーをもっと活用するか新しいキャラクターを生み出しPRする

⑱

感想

- 自然の中で過ごし、とてもリラックスできた
- 色々な経験をさせていただき、多くの新たな発見があった
- ペンションにはそれぞれ個性があり、おもてなしにも違いがあると感じた
- 後継者不足や、空きペンションの増加などの問題があることを知った
- 近くにお店がある都会での生活は便利だが、１週間ほどなら田舎での生活も良いリフレッシュになると感じた